



すずしろ

～開拓・発展・完成～

9月 第5号

令和5年9月22日

開進第四中学校だより

校長 田邊克宣

『 2学期を 健康・安全に 元気よく！！ 』

9／7（木）から2泊3日で3年生の修学旅行を実施いたしました。生徒たちはTPOをわきまえ、思う存分楽しみ、たくさんの思い出を胸に残しました。開四中の最高学年として、本当によくやっていました。帰京した後の新型コロナウイルス感染症の発症状況については、潜伏期間を考えれば、おそらく修学旅行出発以前に感染していたケースも多くあるようです。つまり、修学旅行の日程が数日後であったら、多くの生徒が参加できないどころか、修学旅行そのものを中止せざるを得なかったかもしれないということです。中学校生活最大の行事を実施できて、本当に良かったと思います。

第2学期が始まって2週間あまり。この間、授業日の半分近くの日数を、学級・学年・学校閉鎖としました。想定内のことであり、驚くには当たらず、また全て本校生徒の健康を第一に考えての措置ですが、できるならば避けたい対応です。

新型コロナウイルスが第5類となって、行動制限が大幅に緩和され、9月には地域の祭も復活し、子供たちの日常もだいぶ以前に戻ってきました。そうした中、現在の流行種はオミクロン株の派生型「EG・5」（通称エリス。ギリシア神話の”不和と争いの女神”）で、これまでの変異株と比べてかなりの短期間で主流に置き換わり、感染力も強いということです。「いつ・どこで・誰が」かかるか分からない状況は、今般本校で経験したとおり、依然として続いております。

『感染者から1～2メートル以内で、飛沫・エアロゾルの吸入により、感染します。離れた場所でも、ウイルスが付着した場所に手を触れ、そこから粘膜を通して感染します。感染者が発症していなくても、他者に感染させます。』

この事実に対して、マスク着用や手指消毒、ディスタンス保持等の対応策を講じることで感染を防いできたこの3年間は、我々が学んで得た知恵とその実践に他なりません。第5類となって、マスク着用等も各自の判断に委ねられる社会状況となっても、ウイルスが消滅したわけでは決してありません。子供たちが、塾や習い事や遊びに出かけた先での感染リスクは変わらずにあり、家族からの家庭内感染率が高いことは今更言うまでもありません。それは教職員も同じです。そうした個々人が500人近く、一つの建物の中で一日10時間も共に過ごすのですから、学校における感染リスクは変わらず高い状況にあるという判断が、危機管理上妥当なところだと考えます。

2学期も、大事な学習と行事に諸々の教育活動があります。それらを実施する度に、感染が広がって学級・学年・学校閉鎖とさせないために、学校としてできる限りの対策を講じて参ります。

10／21（土）の合唱コンクールにつきましても、昨年同様、練習および本番でのマスク着用を実施いたします。また、練習場所や人数制限・形態等、感染防止のために必要な措置を徹底して参ります。今後の感染状況によっては、当日の実施も含め、内容や参観形態等についても変更せざるを得なくなる可能性もあります。全て、行事の安全な実施と、その後の学校生活の円滑な継続を図るための対応として、保護者、地域の皆様にはぜひともご理解いただきたくお願いいたします。

9／20（水）から全年齢対象（生後6か月以上）のワクチン接種が始まりました。同時進行でインフルエンザへの備えも必要です。健康・安全に、そして元気に2学期を過ごすために、何を最優先とすべきか、そのために取るべき行動は何か、自己判断に委ねられる現在だからこそ、一人一人が考え、より安全な方法と行動を選択して実践するときです。

開進四中の子供たちと、その周りの兄弟姉妹家族他、全ての人々の健康・安全のために、ご家庭・地域の皆様のご理解とご協力を、引き続きお願い申し上げます。